

事例名：機能性食品開発へのマッチング

機関及び連携機関

- ▶ 岡山県工業技術センター
バイオアクティブおかやま(産学官連携組織)

功労者

- ▶ 岡山県工業技術センター
バイオアクティブおかやま
プロジェクトマネージャ 佐藤芳範

事例の概要

産学官連携組織「バイオアクティブおかやま」は食品・バイオ分野の県内産業の振興を目的に、機能性食品等の事業化、商品化を支援する組織として、食品関連産業、大学等の研究者及び行政が連携して、平成14年9月に設立された。事務局は岡山県工業技術センターにおかれている。功労者は「バイオアクティブおかやま」のプロジェクトマネージャとしてこれまでに黒豆クエン酸飲料、黒々茶、黒豆納豆、玄德茶、卵黄ペプチド、やまぶどうワインビネガー、ピオーネ・リキュールなどに技術シーズを発掘し、これらの一部は事業化商品化に至っている。

(特筆すべき事項)

▶ <活動成果・実績> 共同研究マッチング実績15件 産学官の仲介10件 その他、県内企業に対する技術相談等食品加工分野において多くの実績がある。

具体的成果等

連携体制の特徴・波及効果

◎連携の概要とその特徴

産学官連携組織「バイオアクティブおかやま」は食品関連企業、研究者、行政の産学官連携を通じて、生理活性物質を含む機能性食品等の事業化、商品化を推進する組織である。地域企業がこれまで個別に行なっていた機能性の分析・評価作業には膨大な時間・手間・コストを要したが、「バイオアクティブおかやま」構成メンバーの持つ技術とデータを利用することで迅速化が図れ、商品化が推進された。

さらに、販路開拓の面でも産学官連携組織「バイオアクティブおかやま」が一体として機能性食品に取り組むことと併せ、HP等で参加企業の紹介も行うため、広く会員相互の交流の場となり、新たな販路開拓に繋がった。

◎功労者の主な役割

功労者はこうした産学官連携組織「バイオアクティブおかやま」の産学官連携活動の中核となって地域産業の振興に貢献した。

◎連携体制によってもたらされたあるいは期待される具体的な効果

「バイオアクティブおかやま」は地域の食品関連企業の技術開発に貢献しているが、大学等のシーズ発掘型の研究開発にも貢献している。例えば、岡山大学医学部の岡田茂教授のグループは岡山県が推進する産学官連携プログラム『バイオアクティブ岡山』の指定を受けた開発プロジェクトに参加し、黒豆の抽出物を使った黒豆クエン酸飲料の開発を行い、“五黒まるやか酢”〈キミセ醤油株〉の商品名でヒット商品となっている。